

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 指扇 中学校)

学校番号 230

【様式】

|        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 学校教育目標 | 自信と誇りに満ちた指中生 ～WE LOVE SASHIOGI～ |
| 目指す学校像 | 生徒の望ましい成長を支援する学校                |

|      |   |
|------|---|
| 重点目標 | 1 基礎基本を定着させる学習指導の工夫改善<br>2 地域と連携した教育活動の推進<br>3 魅力ある学校づくりの推進<br>4 機動力のある教職員組織の構築 |
|------|---|

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

|                     |   | 学 校 自 己 評 価                |  |   |  | 年 度 評 価 |  | 学校運営協議会による評価  |
|---------------------|---|----------------------------|--|---|--|---------|--|---|
|                     |   | 年 度 目 標                    |  |   |  | 年 度 評 価 |  | 実施日(令和)年 月 日  |
| 番                   | 現状と課題   | 評価項目                       | 具体的方策  | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況  | 達成度     | 次年度への課題と改善策  | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等   |
| 学びの質の向上に関する取組       | (現状)<br>○タブレットで、授業や総合の学習の時間など学年内で、探究的な学びを推進している。<br>○主体的な学びを実現するために、ICT支援員等と連携し、校内研修を行い、教員一人一人の授業観の変容がみられている。<br>(課題)<br>○学びの動機付けや主体的に物事を考える生徒の育成をさらに必要としている。<br>○自主的に教職員同士が学び合い、授業改善を進めているが、生徒がICTを活用して、学び合う活動を一層取り入れる必要がある。                                   | ○主体的に学習に取り組む態度の涵養          | ①主体的に学ぶ生徒を育成するために、タブレットを活用した学び合いの授業を実施する。<br>②自らの成長を実感するために、授業の終末等には、学習を振り返る時間を設定する。                             | ①「学びの指標アンケート(2回目)」項目5で3.5ptにする。(R6:3.34)<br>②「学びの指標アンケート(2回目)」項目15で2.7ptにする。(R6:2.63)                     | ①「学びの指標アンケート(2回目)」項目5は3.32ptであった。<br>②「学びの指標アンケート(2回目)」項目15は2.59ptであった。  | B       | ①②校内研修や職員会議等で、重点目標を説明する。管理職による校内授業参観後のフィードバックの際に本項目に触れて助言する。   | ・ICTの活用と体験的な活動の二項対立にならないよう教育活動を実践してほしい。<br>・読み書きも大切であり、基本的事項の定着も大切にしてほしい。         |
|                     |   | ○ESDを通じた学びの動機付け            | ①学びの動機付けを図るため、関係機関と連携し、生徒及び教職員のESDの理解を進める。<br>②ICT支援員を中心に、ICT活用の研修を実施する。<br>③各教科・各学年で、タブレットの効果的な活用について実践・共有を進める。 | ①大学講師と共に、研究会を実施する。(年2回)<br>②学び方推進担当による研修会を実施する。また、校内公開授業週間を実施する。(年2回)<br>③「市学習状況調査」項目74で2pt向上させる。(R6:40%) | ①講師に依頼の元、ESDに関する教員向けの講話を4月に、生徒向けを5月に実施した。<br>②校内研修にて、「個別最適」に関する研修を行い、その後公開授業週間2回設定した。<br>③「市学習状況調査」の結果が届き次第確認する。 | B       | ①来年度も継続して講演を依頼して、研修の充実を図る。<br>②公開授業を設け、参観するシステムを構築する。<br>③タブレットの活用の研究として、②の公開授業週間に位置付け実施する。                                    |   |
| 心の子どもの発達やサポートに関する取組 | <現状><br>○教育相談部会を中心に、支援・配慮が必要な生徒に関する情報交換が定期的に行われている。<br>○相談室、Sola る一む、個別の取り出し指導など、教室以外での学ぶ機会が確保できている。<br><課題><br>○支援・配慮が必要な生徒に関する具体的な手立て・方策を更に工夫する必要がある。<br>○Sola る一むでの学習が自習であるため、教員が学習指導をする機会を設ける必要がある。   | ○情報の確実な共有と支援策の検討           | ①保護者への情報提供を適時適切に行う。<br>②校内での共通理解を図るために、学校内で会議を設けたり、支援についての研修を行ったりする。   | ①保護者への情報提供としてのお便りを出す。(学期に1回)<br>②校内研修を行い、生徒への指導へ反映させる。(年1回)また、生徒指導及び教育相談部会を実施する。(週1回)                     | ①保護者への情報提供としての相談室等のお便りを学期に1回配付した。<br>②校内での共通理解を図るために、夏休みに校内研修を行った。また、生徒指導及び教育相談部会を週1回実施した。                       | B       | ①保護者や生徒への情報提供としての相談室等のお便りをスクリレ等で配付する。<br>②校内での共通理解を図るために、夏休みに校内研修を実施する。ケース会議を月に1回実施する。   | ・デジタル化するところはデジタル化し、保護者に伝わりやすいようにお願いしたい。<br>・いじめの積極的認知をお願いしたい。                     |
|                     |   | ○生徒理解に基づく、指導の充実            | ①SAやSSW等と連携し、教育相談的な手法により、生徒の個性を大切に支援を行う。<br>②個々の生徒の学習環境の整備のため、地域ボランティアやSAと連携したSola る一む運用を図る。                     | ①「学校評価」項目「相談できる」でAB回答合わせて5pt向上させる。(R6:80%(生徒)80%(保護者))<br>②教育相談部会にて、Sola る一む運用の工夫・改善に係る協議を相談部会で年5回以上協議した。 | ①「学校評価」項目「相談できる」で肯定的回答は生徒80%、保護者80%であった。<br>②教育相談部会にて、Sola る一む運用の工夫・改善に係る協議を相談部会で年5回以上協議した。                      | B       | ①SAやSSW等と連携し、生徒の個性を大切に支援を行うために、相談部会以外にも相談室に通い、さまざまな視点からの支援策を立てる協議をする。<br>②教育相談部会にて、Sola る一むをより良い居場所とするため、椅子や机、パーティションの工夫を図る。   |   |
| 地域とともにある学校づくりに関する取組 | <現状><br>○地域のお祭りやボランティア等、多くの生徒が積極的に参加している。<br>○地域防災アドバイザーと連携し、集団下校等を企画している。<br>○スクリレや学校HPを活用し、生徒や学校の様子を保護者や地域の方々に配信している。<br><課題><br>○地域行事に参加する生徒を増やす必要がある。<br>○形骸化した避難訓練とならないよう、地域防災と関連させ、企画・運営する必要がある。<br>○学校HPに公開している内容を精査し、保護者や地域の方々にとって有効的な情報になるよう工夫する必要がある。 | ○地域行事への参加を促し、生徒と地域との交流の活性化 | ①学校行事の公開や地域行事への参加の可否や広報について、学校運営協議会で協議する。<br>②学校だより、学年だよりなどを通して、地域行事の広報を行う。<br>③防災アドバイザーと協働し、実践的な避難訓練等の企画・運営を行う。 | ①学校運営協議会を開催する。(年3回)<br>②地域へのボランティアとして、生徒へ周知する。(通年)<br>③実践的な訓練の企画・運営に向けて、防災アドバイザーと協議する。(年3回)               | ①学校運営協議会を年3回開催した。<br>②ボランティアに係る広報として、学校だより等に掲載できなかったが、活動状況を扇通信に掲載した。また、学校運営協議会にて報告した。<br>③防災アドバイザーとは年5回協議を実施した。  | A       | ①学校運営協議会を開催する。<br>②地域へのボランティアとして、生徒へ周知するため、集会等を活用し、説明する。<br>③防災アドバイザーとの協力体制を強化し、地域に根差した防災教育を図るため、参加いただく防災アドバイザーの人数を増やす。        | 本年度の避難所開設訓練等において、参加した生徒が自主的に各フロアへの案内をしていた。このように生徒が地域の一員として活動できる機会をもっと持てるようにしてほしい。 |
|                     |   | ○積極的な情報発信を通じて、学校経営の理解促進    | ①保護者会や学校公開を行い、直接的な説明や学校掲示等で、学校経営方針の理解を促す。<br>②スクリレや扇通信で学校の様子を積極的に配信する。   | ①保護者会の設定と学校公開期間を設定する。(毎学期)<br>②「学校評価」項目「情報発信」で、A回答5pt向上させる。(R6:58%)                                       | ①毎学期末に保護者会の設定と、保護者会の週に合わせて学校公開週間を設定した。<br>②「学校評価」項目「情報発信」でA回答が52%と前年度に比べ6ポイント低下したが、肯定的な回答でみると、増減はなかった。           | B       | ①学校公開週間に合わせてスマホ・タブレット安全教室等の集会を設定し、生徒だけでなく保護者にも参加してもらい機会を設ける。また、PTA主催による保護者会を設定する。<br>②情報主任を中心とし、地域・家庭にとって有益な情報を提供できるよう内容を精査する。 |   |
| 教育環境の整備に関する取組       | <現状><br>○生徒会活動では、各種委員会の活動の見える化を進めている。<br>○昨年度大がかりな工事があり、植栽が枯れてしまっている。<br><課題><br>○生徒総会等を活用し、生徒の自主的な活動を振り返り、生徒が主体となる学校づくりを進める必要がある。<br>○業務主査と連携し、適切な場所・時期を検討し、花植えを行う必要がある。   | ○安心して学べる学習環境の整備            | ①道徳の時間や給食の時間では、生徒同士のかかわりの時間を大切にする。<br>②生徒の自主的な活動の場を積極的に設ける、振り返りを実施する。  | ①「学校評価」項目「落ち着いた学校生活」でA回答5pt向上させる。(R6:51%)<br>②生徒会集会及びいじめ撲滅週間を実施する。(年13回)                                  | ①「学校評価」項目「落ち着いた学校生活」で、A回答は1pt向上した。<br>②生徒会集会は学級閉鎖等の影響を除きほぼ予定通り実施した。いじめ撲滅習慣を年2回、実施した。                             | B       | ①生徒同士で意見を出し合う仕組みをつくる。<br>②生徒の自主的な活動の場を設定し、振り返りを実施する。また、生徒の活動の見える化を図るため、活動写真等を掲示する。   | 生徒の思いや発想を引き出す取り組み、夏の熱中症対策を含めた植物管理など、持続可能な活動にする必要がある。                              |
|                     |   | ○美しい環境を作り、彩りある学校づくり        | ①教職員や広報委員会、環境委員会で校内掲示や花植えを行う。<br>②業務主査と連携し、環境整備を行う。  | ①「学校評価」項目「きれいな環境」で、AB回答合わせて5pt向上させる。(R6:85%)<br>②生徒会の日に、業務主査と一緒に植栽活動を行う。(年3回)                             | ①「学校評価」項目「きれいな環境」で、AB回答合わせて2pt向上した。<br>②生徒会の日に、業務主査と一緒に年3回植栽活動を行った。  | B       | ①生徒総会等を活用し、植栽の美しさを伝え、保護者の意識を高める。また、活動の見える化を図るため、校内に写真等を掲示する。<br>②業務主査と連携し、適切な場所・時期を検討し、花植えを行う。                                 |   |
| 教職員のキャリア形成に関する取組    | (現状)<br>○服務についての意識は比較的高く、業務に対して誠実に取り組んでいる。<br>○時事的な教育課題に対応するため、校内研修等で情報共有を行っている。<br>(課題)<br>○職員の年齢層が若く、計画的に資質向上を行っていく必要がある。   | ○キャリアステージに応じた個別最適な研修の推進    | ①定期的な倫理研修会と共に、教員自身が年間を見通して取り組む研修計画を考え、面談等で適時に進捗を管理し、教員としての資質向上を図る。   | ①教頭・教務主任を中心に、関係主任等による倫理研修会を開催する。(年6回)<br>②「学校評価」項目「組織対応」でA回答3pt向上させる。(R6:37%)                             | ①職員会議の時間を活用し、校長や教頭を中心に年6回倫理に関する研修や指示・伝達を行った。<br>②「学校評価」項目「組織対応」でA回答が29%と前年度に比べ8ポイント低下した。                         | A       | ①各種関係主任と連携を図りながら、年間を通じて計画的な研修を設定する。<br>②企画委員会・生徒指導部会・教育相談部会を中心とした各種部会等で学年間の共通認識を図るとともに、定期的な校内研修を行う。                            | 若い教職員が増えている。積極的に情報共有や報告相談を行える組織づくりが大切である。   |
|                     |   | ○同僚性や協働性による業務負担軽減の実践       | ①日々の声掛けや校長室の開放による風通しの良い教職員関係の構築により、負担感の軽減を図る。  | ①令和7年度当初人事に関する調査の「満足度」の項目「非常に満足」と「やや満足」合わせて、5pt向上させる。(R6:65%)   | ①満足度の項目については、各5%減の結果となったが、若手教員の「報連相見聞」の「報連」については、意識されてきた。  | B       | ①日常のコミュニケーションを大切にするとともに、良きモデルとなる教職員の実践事例の紹介と育成を行う。   |   |